

# 街なかに残る湧き水知って

和光で28日 環境フォーラム



大坂ふれあいの森を流れる湧き水  
＝和光市白子2丁目、高橋さん提供

開発が進んだ街のなかに、湧き水や斜面林が残る和光市の自然環境への理解を深めようと、「緑と湧き水環境フォーラム」が28日、和光市白子コミュニティセンター（同市白子2丁目）で開かれる。主催はNPO法人「和光・緑と湧き水の会」。

東京都境にある白子川周辺は武蔵野台地の末端部にあり、湧水が多い。その豊かな水を活用して、明治政府は熊野神社付近に、サケやマスの養魚場を設けたほどだ。

当日は午前10時、最寄りの東武東上線成増駅（東京

都板橋区）の改札口前に集合。「白子湧水群」にある大坂ふれあいの森、富沢湧水、熊野神社滝、湧水道を見学する。午後からは、山田啓一・法大教授、小泉武栄・東京学芸大教授、同NPO理事らが武蔵野台地と湧水、保全や活用について、講演やパネルディスカッションを行う。

同NPO代表理事の高橋絹世さん（69）は「湧水と都会の中の緑と一体となった環境を多くの人に見て知ってもらいたい」と話す。

参加無料。申し込み・問い合わせは市環境課（048・464・1111）。